

国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ)
文部科学省 (日本)

ESD 世界会議、全世界の国々に新たな誓約を求める (仮訳)

11月12日、愛知・名古屋：「ESDに関するユネスコ世界会議」は、ESDを主流化し、ポスト2015年開発アジェンダにESDを取り入れるため、直ちに行動することを求める宣言を採択して、本日閉幕しました。「あいち・なごや宣言」は、ESDアジェンダを更に進めるために、全てのステークホルダーに「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」の実施を求めます。

「世界各地の成功事例を共有し、政府代表やその他の主要なステークホルダーが、新たな目的や目標を形成する一助とすることができました。その成果を『グローバル・アクション・プログラム』の実施に関するESDのロードマップに取り入れました。」と、ユネスコのチェン・タン教育担当事務局長補は述べました。

1,000人以上の参加者が「持続可能な未来に向けて今学ぶ」という旗印の下、3日間の会議に集まりました。参加者には、148か国からの74名の閣僚級、ユネスコ加盟国の政府代表、NGO、研究者、企業、国連機関、専門家、若者が含まれます。

「日本政府に『ESDに関するユネスコ世界会議』を開催していただいたことに感謝の意を表します。」と、タン事務局長補は述べました。

GAPは、今年最終年を迎える「国連ESDの10年」のフォローアップです。それぞれ五つの優先分野 1) 政策的支援、2) 機関包括型アプローチ、3) 教育者、4) ユース 5) 地域コミュニティにおけるESDの活動を生み出し、拡大するものです。ユネスコは、ステークホルダーにGAPの開始に当たり特別な貢献を求め、80か国のステークホルダーから363のコミットメントの提出がありました。

「あいち・なごや宣言」は、「閉会全体会合」において全会一致で採択されました。10年の成果や本会議及び前週の岡山でのステークホルダー会合での審議を踏まえて取りまとめられました。この宣言は、本会議の成果が、韓国の仁川で開催される「世界教育フォーラム2015」で考慮されることも確保するものです。

愛知・名古屋での本会議は、ユネスコと日本政府の共催で開催されました。主催国を代表して、丹羽秀樹文部科学副大臣は、「ESDの10年の終了をもってESDが終わるわけではありません。むしろこれまで培われてきたESDの経験をもって、より強くコミットして新たによりスケールアップしたESDの取組を始めましょう。」と述べました。

詳しくはこちらを御覧ください。

「ESDに関するユネスコ世界会議」 (ユネスコのウェブサイト)

<http://www.unesco.org/new/jp/unesco-world-conference-on-esd-2014/>

<問合せ先> ユネスコ 斎藤 珠里

Tel : +33 6 19 99 57 75 (フランス)

+81 80 5492 3175 (日本 11月10~13日)

Email : j.saito@unesco.org

文部科学省国際統括官付

国際統括官補佐 本村 宏明

専門職 小野 憲一

Tel: +81 3 6734-4956

Mobile: +81 90 8964 2560 (11月10~12日)

Email: jpnatcom@mext.go.jp

正誤表

段落	行	誤	正
3	2	<u>148</u> か国	<u>150</u> か国・地域
3	2	<u>74</u> 名の閣僚級	<u>76</u> 名の閣僚級